



佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン（案）



佐倉市

令和6年●月

目次

01 アクションプランの位置付け . . . p.2

02 目指すべき姿 . . . p.5

03 リーディングプロジェクト . . . p.13

04 実現化方策 . . . p.21

01

01 アクションプランの位置付け

01 佐倉里山自然公園の概略

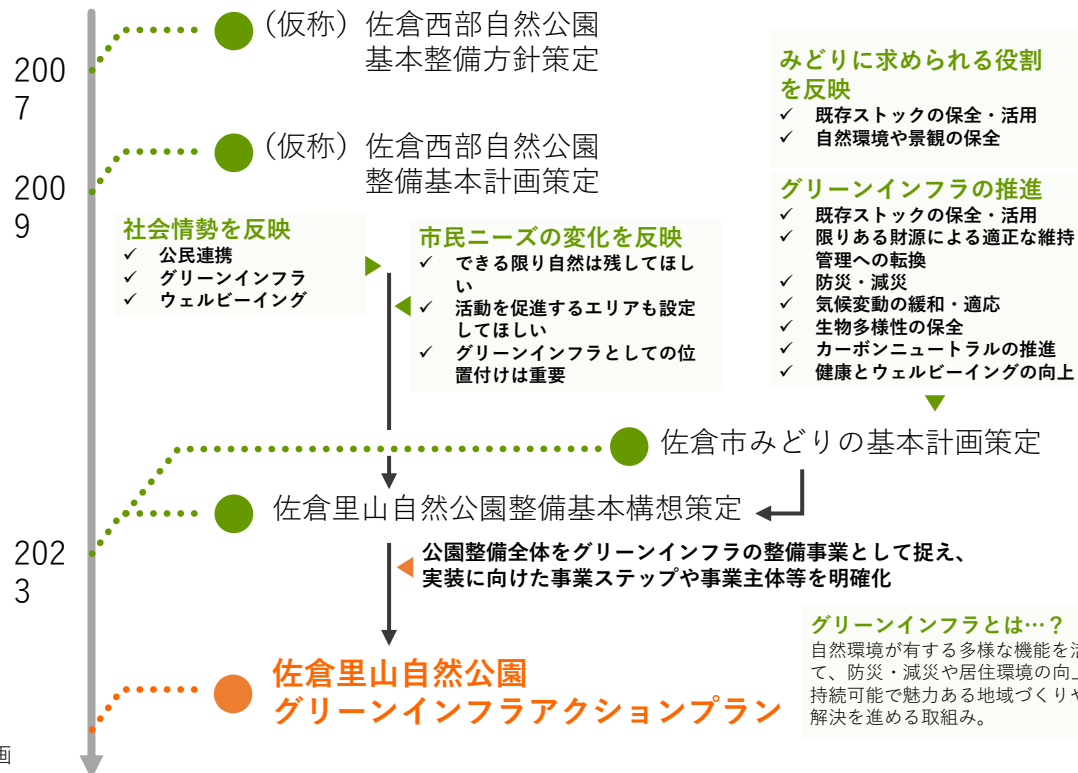
佐倉里山自然公園とは

- ✓ 佐倉市の西部に位置し、志津・ユーカリが丘地域と臼井・千代田地域に囲まれた、約73.8haのエリア。
- ✓ 現時点では都市公園としての位置付けはなく、民有地が計画地の半分近くを占めているため、当面の間、都市計画決定は行わず、地権者と協調し、公園整備を進める。
- ✓ 上手繰川に流れ込む畔田沢を挟み、北側の下志津と、南側の畔田とあわせて広大な谷津が形成され、多様な生態系を形成している。



これまでの経緯

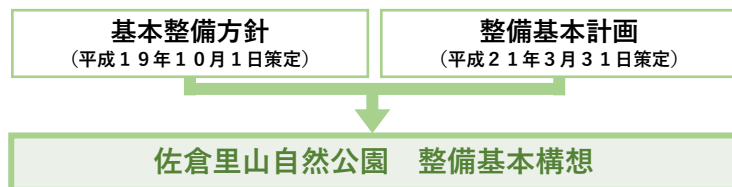
- ✓ これまで（仮称）佐倉西部自然公園として整備するため、基本整備方針や整備基本計画が策定され、整備や維持管理が進められてきた。
- ✓ しかし、計画策定から10年以上が経過したことから、都市を取巻く社会情勢や市民ニーズ等の変化も踏まえて、佐倉里山自然公園整備基本構想が2023年6月に策定された。
- ✓ この基本構想を実現するための具体的な道筋を示すものとして、「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン（以下「アクションプラン」という。）」を策定するに至った。



01 アクションプランの位置付け

アクションプランの役割

- ✓ アクションプランは、佐倉里山自然公園整備基本構想の実現に向けて、目指すべき姿を具体化するとともに、基本方針・基本施策を実際に推進していくための事業ステップや事業主体を明確にし、2024年度以降、公園協議会が中心となって取組んでいく方向性をまとめた。
- ✓ これらの取組は自然の多機能性を活かした、まさにグリーンインフラの取組と言える。そのため、本プランは、「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン」とした。



アクションプランの構成

- ✓ アクションプランは、4章構成となっている。
- ✓ 位置付けに関して示した第1章に加え、第2章ではポテンシャルを踏まえた目指すべき姿を描き、第3章では、目指すべき姿の実現に向けた具体的なリーディングプロジェクトを、第4章では各プロジェクトを進めるための実現化方策について整理している。

02 目指すべき姿

- ✓ 佐倉里山自然公園のポテンシャルを5つのみどりの機能の視点から整理
- ✓ ポテンシャルを踏まえた佐倉里山自然公園の目指すべき姿を明示



03 リーディングプロジェクト

- ✓ 目指すべき姿の実現に向けた、6つのリーディングプロジェクトを設定
- ✓ リーディングプロジェクトごとに事業ステップや事業スキームイメージ、期待される効果を整理



04 実現化方策

- ✓ アクションプラン全体を推進していくための推進体制を整理
- ✓ リーディングプロジェクトを進めていくための資金調達手法や活用が想定される補助事業を紹介



02

02 目指すべき姿

02 佐倉里山自然公園のポテンシャル

佐倉里山自然公園の特性

- ✓ 佐倉里山自然公園は、緑の多機能性を活かすグリーンインフラとしてポテンシャルが高く、みどりの有する5つの機能を地域に提供している。これらの機能を強化していくために持続可能で適切な維持管理を行うことが重要である。

<みどりの機能>

<佐倉里山自然公園の機能>

① 環境保全機能

日々の暮らしにうおいと安らぎをもたらすとともに、多くの生命を育み、都市や地球全体の良好な環境を守り、創出する機能。

緑陰の提供、気温の緩和、大気汚染の改善



- ✓ 年間約914tのCO2を吸収
- ✓ バイオ炭の施用によるCO2吸収の促進
- ✓ クールスポットの形成 等

② レクリエーション機能

日常生活に楽しみや生きがいを創り、スポーツやレジャー、健康増進、余暇活動の場を提供する機能。

子どもの健全な育成の場・競技スポーツ健康運動の場



- ✓ 自然を楽しめる散策路
- ✓ 野外保育・野外体験活動等の環境学習の場
- ✓ 病院や福祉施設等との連携による健康づくりの可能性 等

③ 防災機能

災害時や緊急時の被害拡大の防止や一時的な避難場所となるなど、都市の安全性を向上させる機能。

災害時の避難場所



- ✓ 災害時の防災拠点としての活用
- ✓ 浸透・貯留による上手繰川への雨水流出抑制 等

④ 景観機能

みどりは地域を特徴づける要素の一つであり、地域の独自性を活かした美しい風景や魅力的な景色をかたちづくる機能。

都市景観に潤いと秩序を与える



- ✓ 佐倉のふるさと風景の保全・形成
- ✓ 特徴的な景観資源の保全 等

⑤ 生物多様性維持機能

自然の再生能力や生態系の均衡を保ち、人類を含めた多様な生物が存続していくために必要不可欠な生息・生育基盤としての機能。

生物の生息環境



- ✓ 谷津再生による生態系の回復
- ✓ 谷津による豊かな生態系の維持 等

02 佐倉里山自然公園のポテンシャル

環境保全機能

年間約914tのCO2を吸収

(※市の年間総排出量の0.05%に相当)

下志津エリア：約360.2t-CO2/年
(約22.9ha × 15.73t-CO2/ha)

畔田エリア：約553.7t-CO2/年
(約35.2ha × 15.73t-CO2/ha)

佐倉市のCO2総排出量：1,665千t-CO2/年（2019年度）

※面積：googlemap上で簡易に計測

※式：国交省「低炭素まちづくり実践ハンドブック資料編」より

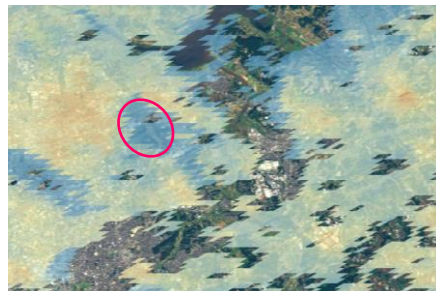
※CO2排出量：佐倉市「第2次佐倉市環境基本計画」より

バイオ炭の施用によるCO2固定化の促進

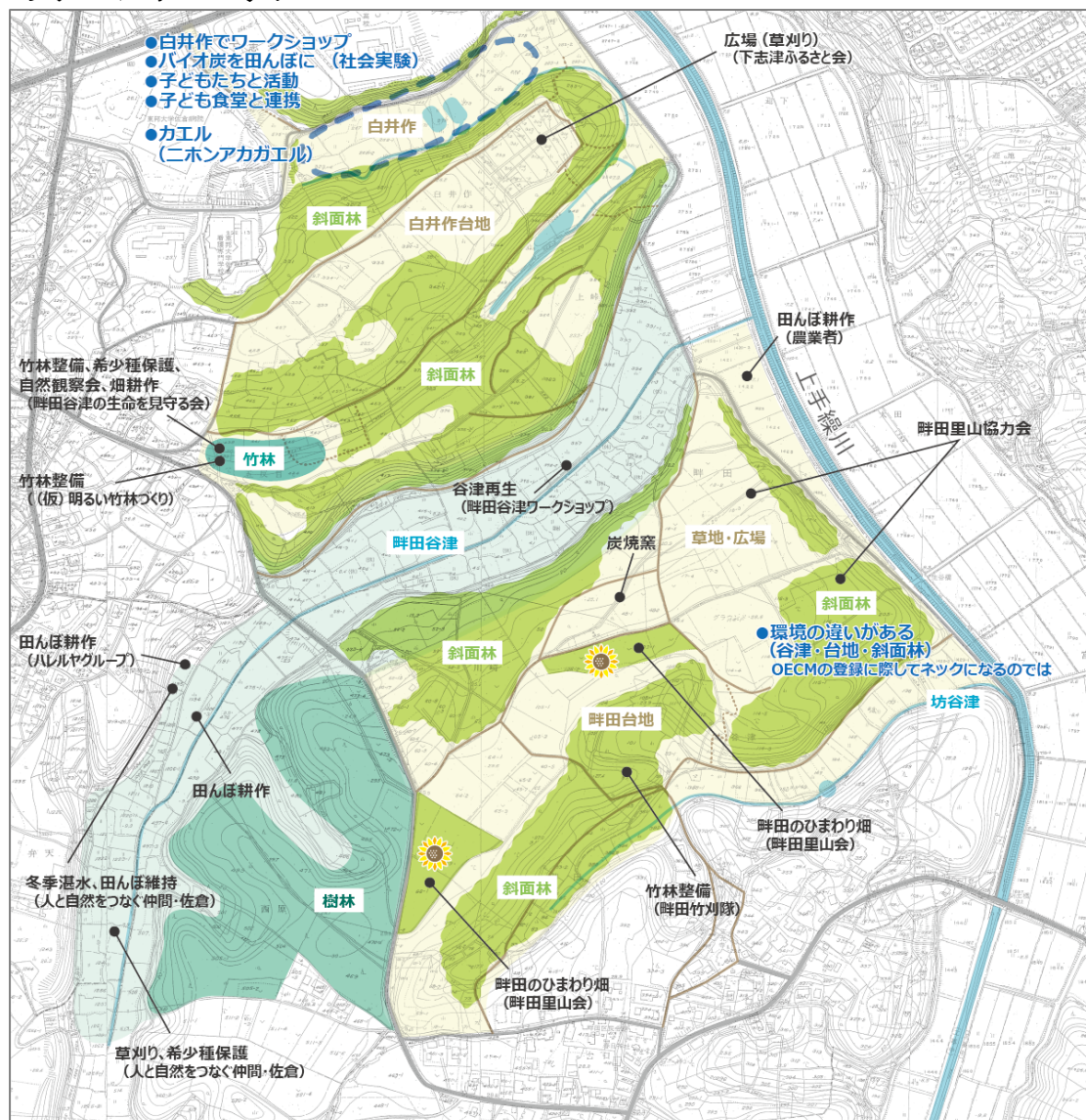
バイオ炭を農地土壌へ施用することで、難分解性の炭素を土壌に貯留し、本来排出されるはずだったCO2の排出量を削減する。
佐倉里山自然公園では、実験的に伐採された竹を活用したバイオ炭づくりを行っている。

クールスポットの形成

夏の地表面温度をみると、周辺と比較して温度が低くなっており、里山と谷津によってクールスポットが形成されている。



ポテンシャルマップ



02 佐倉里山自然公園のポテンシャル

レクリエーション機能

自然を楽しめる散策路

谷津や斜面林、上峠城跡など、自然による多様な景観が形成されており、歩いて楽しめる環境と言える。また、斜面林の中等、日射を避けながら歩ける環境が形成されることで、日常的な外出、ウォーキングの促進への貢献が期待できる。

野外保育・野外体験活動等の環境学習の場

豊かな自然環境や起伏のある地形を活かした、プレーパークや森のようちえん等の野外保育・野外体験教育の場としても活用されている。STEAM教育など、分野横断的な教育が近年求められている中で、そのフィールドとしてのポテンシャルがあると言える。

- プレーパーク** : こどもの想像力と工夫により、遊びを作り出し、チャレンジ精神を育める場。
森のようちえん : 自然体験活動を通じた子育て・保育活動の総称。保護者の自主保育により運営。
STEAM教育 : 科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Arts)、数学 (Mathematics) の頭文字を組み合わせた造語で、各教科での学習を社会での課題発見・解決に活かすための分野横断的な学び。

病院や福祉施設等との連携による健康づくりの可能性

市民の健康推進として、毎日、佐倉里山自然公園までを含む約1.5km程度を散歩するとした場合、数千～数万円程度/年の医療費削減効果が見込める。

例えば、近隣には東邦大学医療センター佐倉病院、ケアハウスくつろぎの里が立地している。散策路を整備することで、これら施設の患者や利用者等のウォーキングルートとして利用する事も想定される。

※歩数：約2,500歩（歩幅60cm想定）

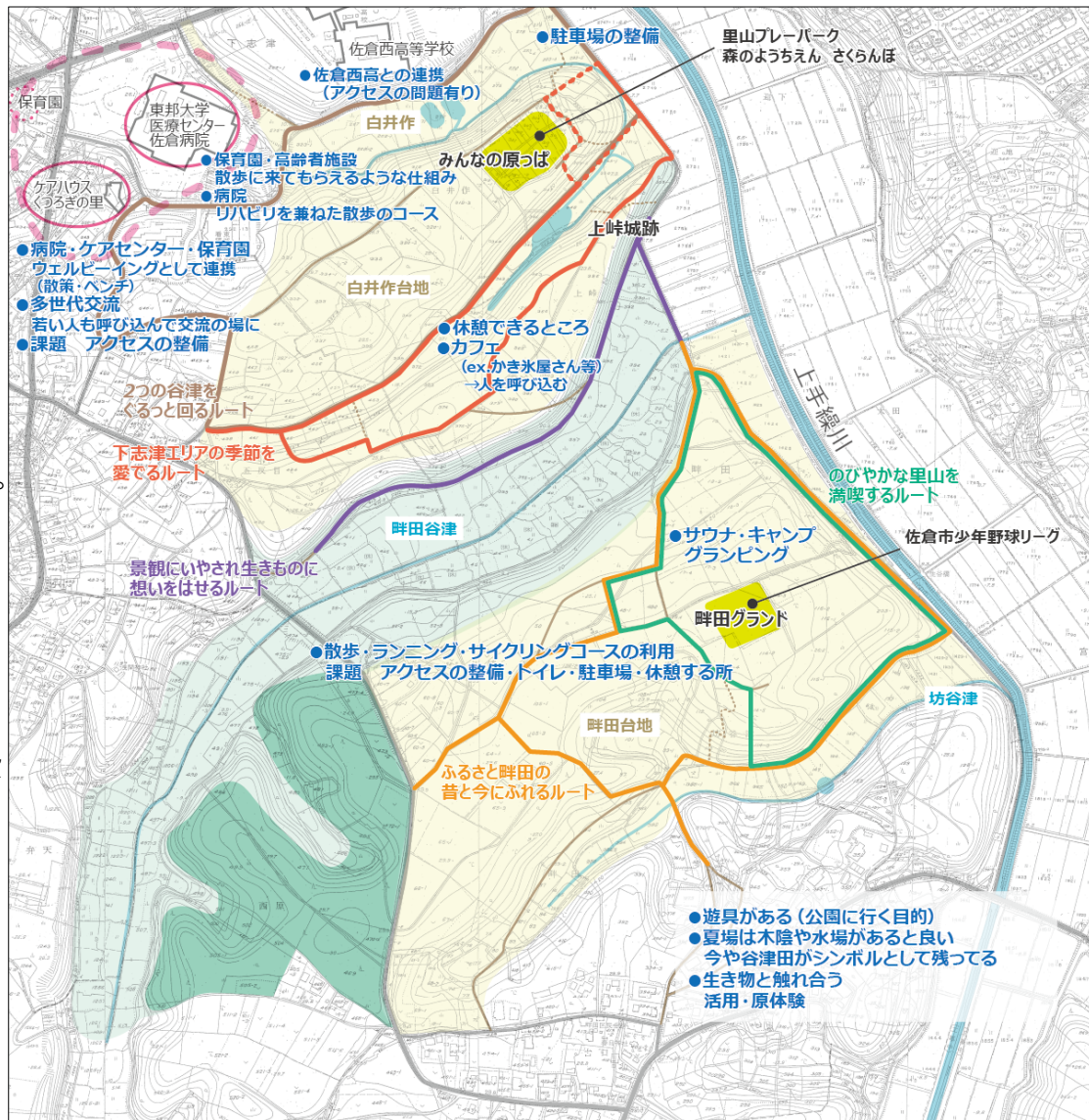
※医療費抑制額：

0.0015円/歩/日～0.061円/歩/日

1日1歩あたりの医療費抑制効果		
1歩あたりの医療費抑制額	研究・報告機関等 [※]	算出方法
0.045 円/歩/日	辻一郎 他 東北大学大学院医学系研究科教授	1日10分間の歩行（1,000歩）により1,341 円/月の医療費抑制効果 ^{※2} より試算 ^{※1}
0.061 円/歩/日	久野謙也 他 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授	新潟県見附市における健康運動教室参加者の医療費抑制効果から算出 ^{※4}
0.030 円/歩/日 （入院外医療費）	駒村康平 他 慶応義塾大学経済学部教授	1日あたり歩行量（歩数）が1歩違うことにより年間の医療費（入院外医療費）11 円/歩の医療費抑制効果 ^{※5} より試算 ^{※3}
0.0015 円/歩/日	野田光彦 他 国立国際医療研究センター病院糖尿病・代謝症候群診療部	歩行量（歩数）と糖尿病を中心とした疾患の発症リスク低下の研究論文を集め、中年期の1,000人をモデルに試算。3,000歩により10年間で15.6百万円の医療費抑制効果より算出 ^{※6}
0.0044 円/歩/日	厚生科学審議会地域保健健康増進委員会、国民健康づくり運動プラン策定専門委員会	1日1,300歩の増加は、NCD発症・死亡リスク約2%減かに相当することから、平成25年度国民医療費（厚生労働省）よりNCD医療費を45-74歳約6兆円と試算 ^{※7}

出典：まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン（国土交通省都市局 2017年3月）

ポテンシャルマップ



02 佐倉里山自然公園のポテンシャル

防災機能

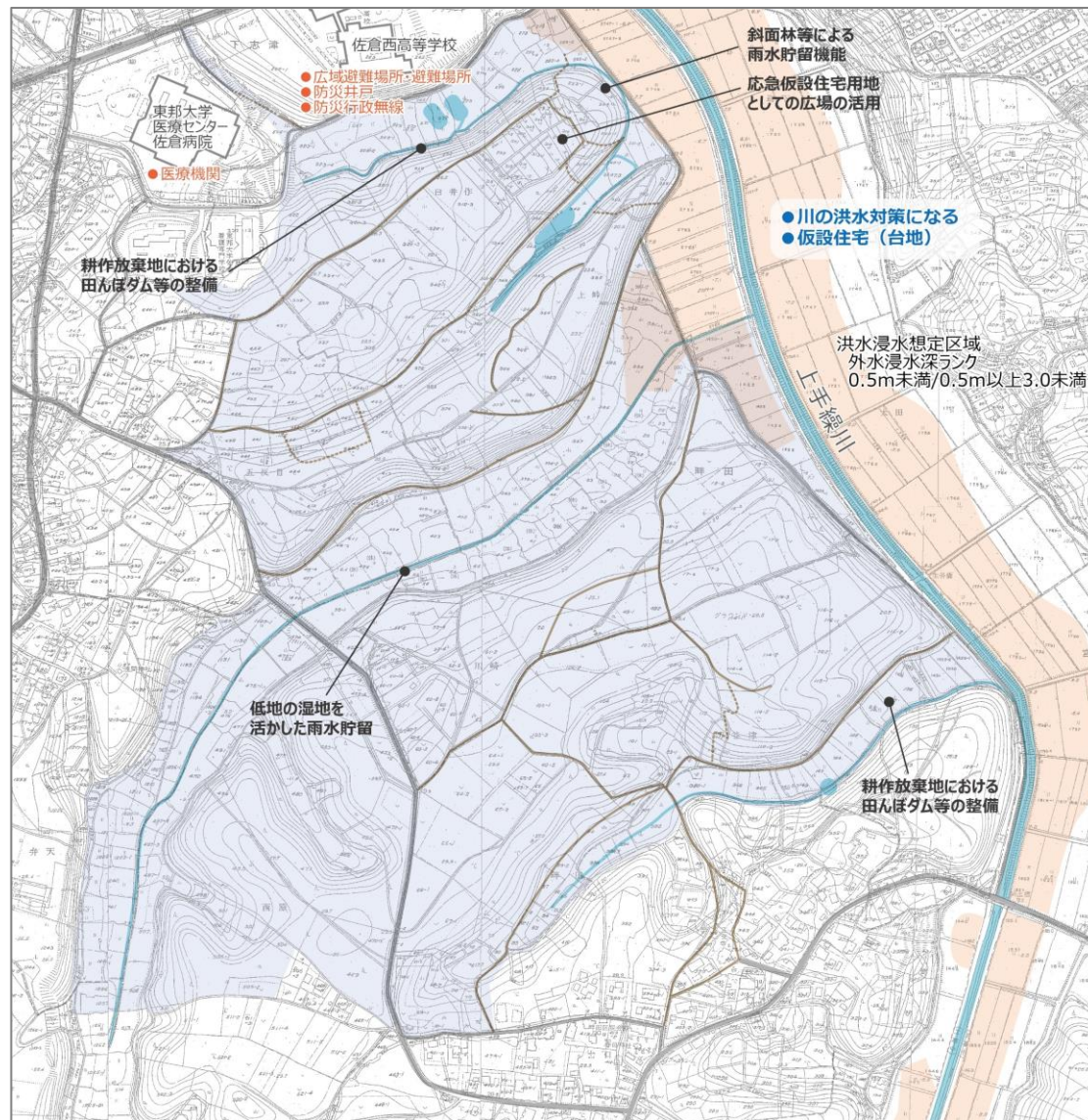
災害時の防災拠点としての活用

「佐倉市地域防災計画」では、災害拠点病院として指定されている東邦大学医療センター佐倉病院や指定避難所のひとつである千葉県立佐倉西高等学校に近いという好立地であること、また、台地上に広く抜けた敷地があることから、応急救助活動、応急物資集積やヘリポート等としての活用が想定されている。また、今後の大規模災害時には応急仮設住宅用地としての活用も想定される。ただし、防災拠点としての活用を想定した場合、上下水道や道路等のインフラ整備が必要となる。

浸透・貯留による上手繰川への雨水流出抑制

上手繰川の流域の中でもまとまった緑地となっていることから、河川への雨水流出を抑制することで、一定の水害抑制効果が見込める。また、耕作放棄地などにおいて谷津の再生等によって田んぼダムとして雨水貯留を促すことで、雨水流出抑制効果の向上が見込める。

ポテンシャルマップ



02

佐倉里山自然公園のポテンシャル

景観機能

佐倉のふるさと風景の保全・形成

「佐倉市公共施設景観ガイドライン」では、印旛沼サンセットヒルズ・市民の森・佐倉草ぶえの丘、直弥公園と並び、「自然・田園景観拠点」として位置付けられており、佐倉のふるさとの風景が残るエリアである。

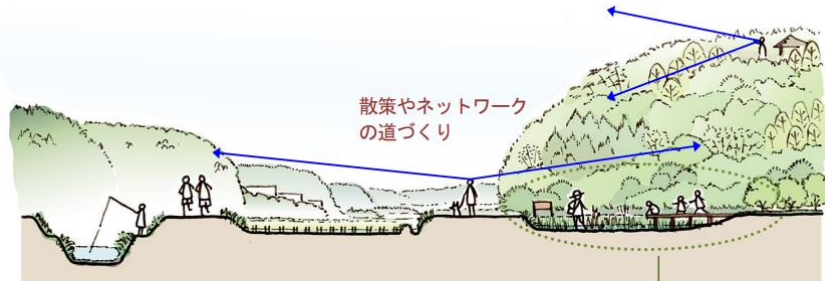
学びの場としても活用し、自然風土や生活文化に根差した佐倉の自然・田園景観の特徴を認知してもらうための拠点となっている。

特徴的な景観資源の保全

古くから風邪の神が宿るとされているエノキの古木（ちゃぶくばあさん）やエノキの巨木等、シンボルとなる特徴的な景観資源が数多くあり、愛称がつけられるなど、地域に愛されている。

また、台地という地形を活かし、戦国時代には上峠城が造られ、今でも丘を大きく横断する堀切や丘の一部を囲う土塁が残されており、戦国時代を想像する大切な手がかりの一つとなっている。

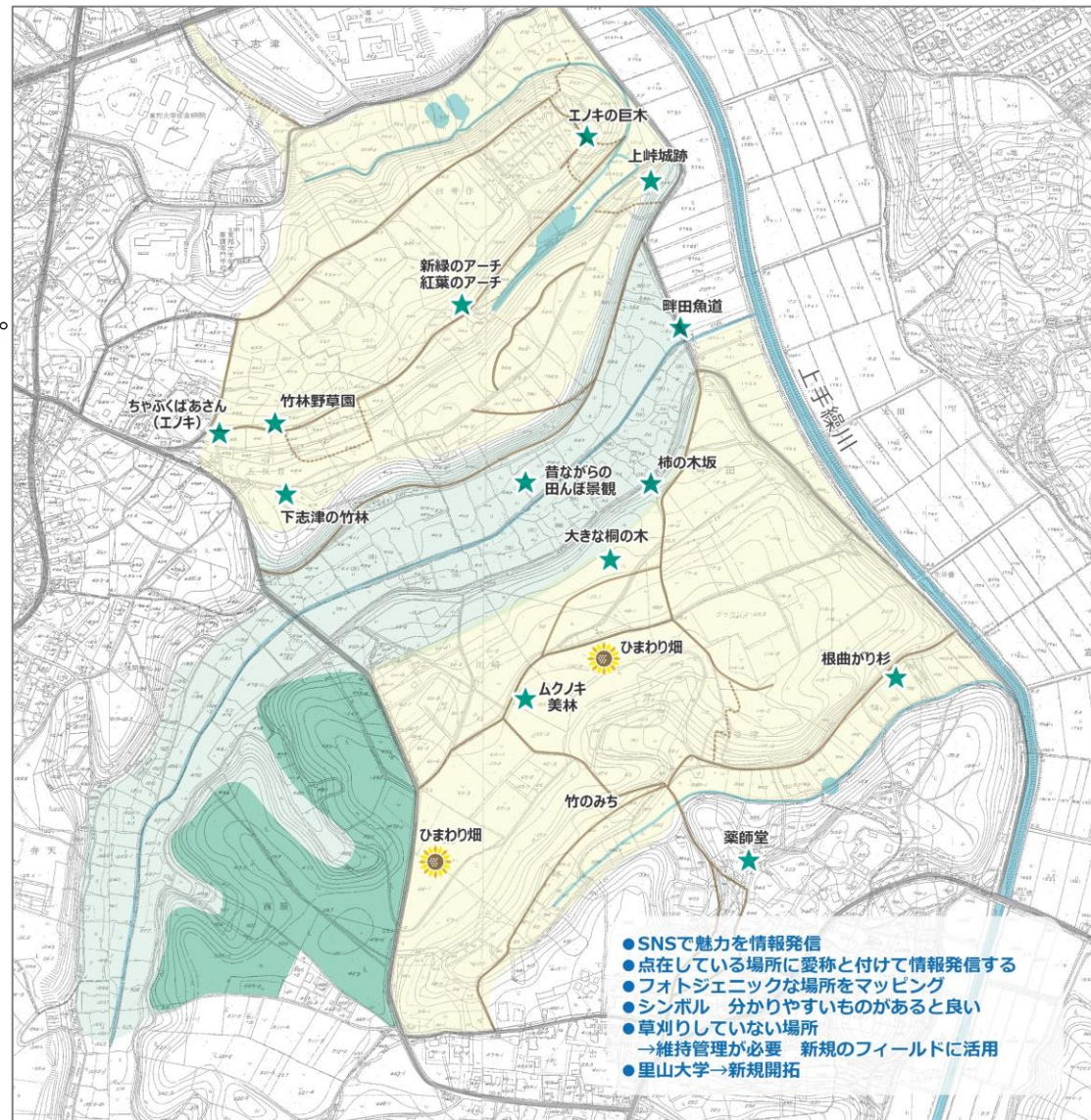
自然・田園景観を見渡せる眺望の場を活用する



拠点施設周辺も含めて、景観の調和や一体性を大切にし、広がりやつながりが体感できる自然・田園景観の形成を図る

自然に親しみ学ぶ場として活用し、そこに生息する生物の環境とともに継承する

ポテンシャルマップ



02 佐倉里山自然公園のポテンシャル

生物多様性の維持機能

谷津による豊かな生態系の回復

豊かな生態系や里山の風景を保全するため、地域団体等による保全・再生活動活動が行われている。その結果として、谷津や生態系が回復している。例えば、環境省の絶滅危惧種Ⅱ類、千葉県のご重要保護生物に指定されているサシバの営巣が確認されている。



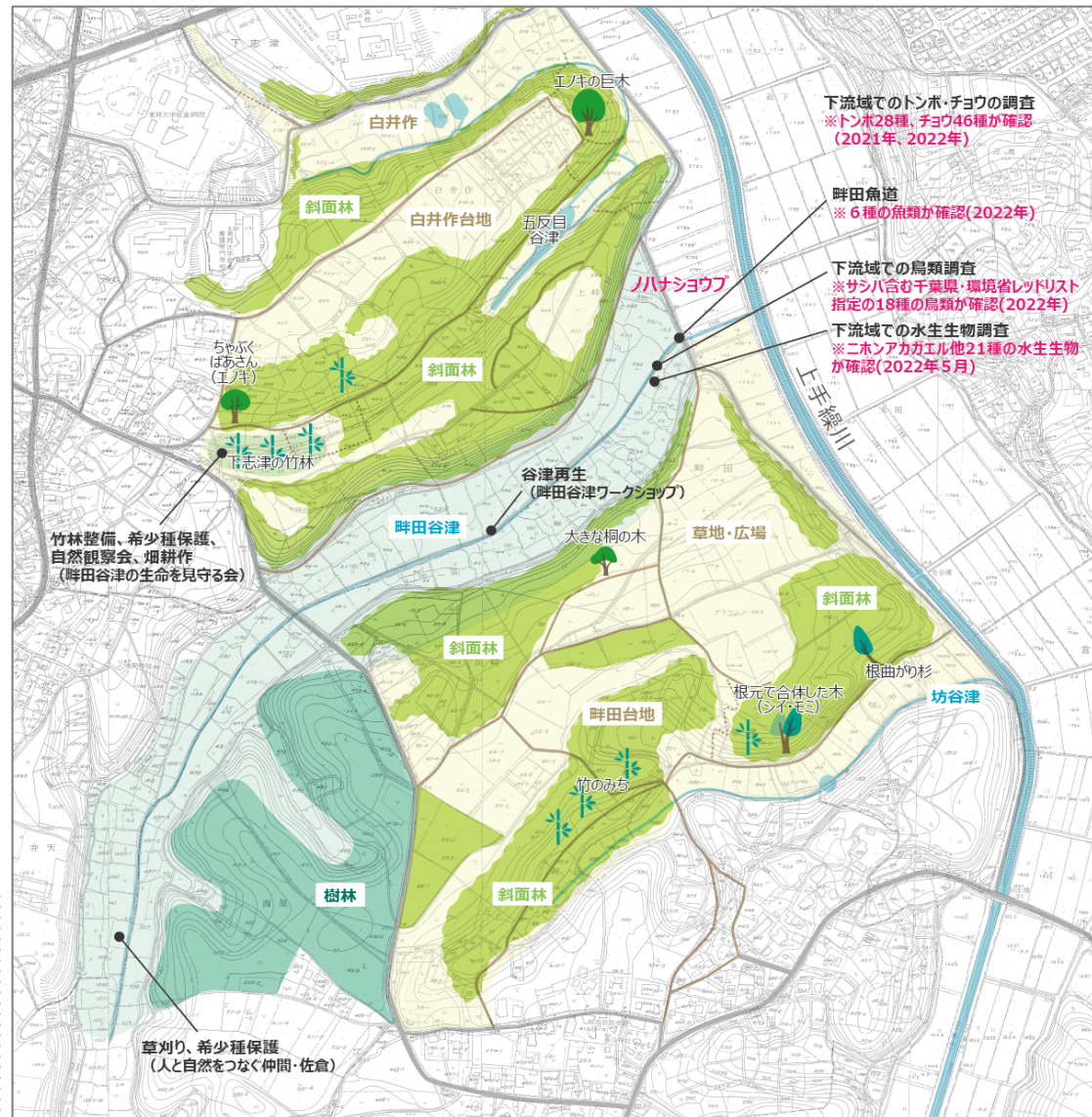
谷津再生による生態系の維持

特徴的な谷津によって多様な環境が形成されている。環境省のレッドリストにおける絶滅危惧種ⅠB類が7種、絶滅危惧種Ⅱ類が2種（サシバ、マルガタゲンゴロウ）、千葉県のご重要保護生物が10種、重要保護生物が26種確認されており、豊かな生態系が保全されている。

畔田谷津の下流域等で確認された環境省レッドリスト掲載（絶滅危惧種ⅠB類、絶滅危惧種Ⅱ類）の種（2016-2022）

種子植物：ヤブムグラ、クマガイソウ、キンラン
鳥類：サシバ
魚類：ツチフキ
昆虫類：マルガタゲンゴロウ

ポテンシャルマップ



02 目指すべき姿

✓ 基本理念を継承しながら、佐倉里山自然公園のポテンシャルや地域の声を踏まえ、佐倉里山自然公園の目指すべき姿を設定する。

里山の多様な価値を創出し、人と自然が共生できる“未来のふるさと”

- 谷津は先人たちが自然環境を守りながら農業やくらしの営みを行ってきた中で育まれてきました。
- 佐倉里山自然公園は、こうした谷津が地域の皆様の手によって守られてきたことで、豊かな生物多様性を有する生態系を保全・継承する貴重なみどりであるとともに、ふるさとの風景を形成しています。その一方で耕作放棄地など保全が追いつかず、ポテンシャルを活かしきれていない一面もあります。
- そこで、豊かな生態系をベースに自然を活かした多様な活動をデザインすることで、人や生き物が集まるくらし・文化の場としての里山づくりを進めます。そして、集まった全員が自分ごととして適切な管理を行っていくことで、里山の持つ機能を高め、その機能を活かした活動がさらに加速していく、こうした循環をつくりだすことで、グリーンインフラによる循環型の里山再生を実現します。
- これからの時代に合った自然と人との共生の場として皆で守り育てていくことで、新しい里山文化を育むとともに、今だけでなく未来のこども達にとってもふるさとといえる風景を継承していきます。

基本理念

「私たちがつくる21世紀の里山自然公園」

1. 里山・谷津の景観を保全・再生する
2. 農林業によって育まれてきた多様な生き物を保全する
3. 身近なふるさとの歴史と文化を次世代に伝える
4. 私たちの身近なふるさとを市民とともに作りあげる
5. 自然と人々とのふれあいをとおして健全な身体を育む
6. 地球環境を考え私たちのできることを学び実践する

平成20年3月21日

佐倉里山自然公園のポテンシャル

- ✓ 環境保全機能：CO2固定、クールスポット等
- ✓ レクリエーション機能：野外保育・健康づくり等
- ✓ 防災機能：雨水貯留等
- ✓ 景観機能：故郷の風景等
- ✓ 生物多様性の保全機能：希少種の生育等

大事にすべきキーワード（地域の声）



03

03 リーディングプロジェクト

03 リーディングプロジェクト

基本的な考え方

- ✓ 目指すべき姿の実現に向けて、里山の機能を高めつつ、そのポテンシャルを最大限発揮させることで佐倉里山自然公園整備基本構想の基本施策を推進していくために、まず行っていくべきことをリーディングプロジェクトとして取りまとめた。
- ✓ そのため、基本施策を踏まえつつも発揮する里山の機能や効果の視点から施策をパッケージ化している。なお、リーディングプロジェクトやその具体的な取組は、活動団体や庁内関係各課が参加した勉強会での意見交換結果を踏まえて設定している。
- ✓ リーディングプロジェクトは、概要・目的、期待される効果、事業ステップ、事業スキームイメージから構成している。

< 基本方針・基本施策 >

基本方針. みどりの保全

基本施策 1. 自然環境や景観の保全

- ・適正な維持管理により自然環境や景観を保全します。
- ・保護区等の認定により自然環境や景観を保全します。

基本施策 2. 生物多様性の保全

(ネイチャーポジティブの推進)

- ・希少な生き物を保護します。
- ・希少な植物を保護します。

基本施策 3. 自然環境や生物多様性の学び

・実践の場の提供

- ・環境学習の場として活用します。
- ・生物多様性への理解を深める活動を実施します。

基本方針. みどりの活用

基本施策 1. グリーンインフラの推進

- ・気候変動の緩和・適応策（カーボンニュートラル）に資する施策を推進します。
- ・防災・減災に資する施策を推進します。

基本施策 2. 心身の健康の推進

(ウェルビーイングの向上)

- ・自然散策により心身の健康を増進します。
- ・こどもの自己肯定感を高め、健やかな成長を支援します。

基本施策 3. 歴史と文化の継承

- ・農業文化を次世代に伝えます。
- ・上峠台地の整備により歴史と文化を次世代に伝えます。

基本方針. みどりの共創

基本施策 1. 市民協働の推進

- ・市民協働による維持管理を推進します。
- ・市民協働による利活用促進を推進します。

基本施策 2. 公民連携の推進

- ・民間事業者による維持管理を推進します。
- ・民間事業者による利活用の促進を推進します。

< リーディングプロジェクト >

① OECM認定を契機とした
谷津保全プロジェクト

② アウトドア・ラーニングプロジェクト

③ 里山健康フィールドプロジェクト

④ バイオ炭を活用した谷津再生プロジェクト

⑤ 里山大学を核とした共創による
里山再生プロジェクト

⑥ 佐倉里山サポーターづくりプロジェクト

03

①OECM認定を契機とした谷津保全プロジェクト（みどりの保全）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 近年、気候変動への対策だけでなく生態系の保全が国際的に求められている。
- ✓ こうした中で、佐倉里山自然公園は、市街地にも近接した立地でありながら、地域によって、豊かな生態系の保全・再生が図られてきた、佐倉のふるさとの風景とも言える場所である。
- ✓ 人と自然が共生するこの風景を未来に継承していくために、持続可能なマネジメント計画を策定・実行することで、グリーンインフラとしての里山の機能を最大化していく。
- ✓ 同時に、自然共生サイトへの登録を行うことで、佐倉里山自然公園の価値を発信し、共感してくれる仲間を増やし、より持続性の高いマネジメント体制を構築する。

期待される効果

- ✓ 30by30への貢献
- ✓ 適切な管理による生物多様性の保全・再生
- ✓ 雨水貯留機能の健全化
- ✓ 健全な樹木の生育によるCO2固定
- ✓ 生態系の価値のPR

短期

OECM認定を通じた里山自然公園の価値の発信

生態系の調査データベース化

- ✓ 畔田谷津を中心とした公園予定区域全体の動植物調査の実施
- ✓ 佐倉里山自然公園における生物多様性の価値の整理
- ✓ 希少植物の保全に向けた調査・研究の実施（クマガイソウの遺伝子バンク等）

保全・活動が共生するゾーニング検討

- ✓ 調査結果に基づく保全と活動のゾーニング（団体・企業エリアも検討）
- ✓ ゾーン別の整備イメージの検討
- ✓ 動線計画の検討
※エリア設定によっては整備イメージ動線計画等が後ろにすることも考えられる

モニタリング計画の作成・OECMへの申請

- ✓ 各ゾーンにおける管理目標の設定
- ✓ 管理目標に基づく管理計画の策定
- ✓ モニタリング方法の検討
- ✓ 主体ごとの役割分担の整理
- ✓ OECM（※）の認定
※自然保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域

次の展開

モニタリング計画に基づく健全な里山環境の再生

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

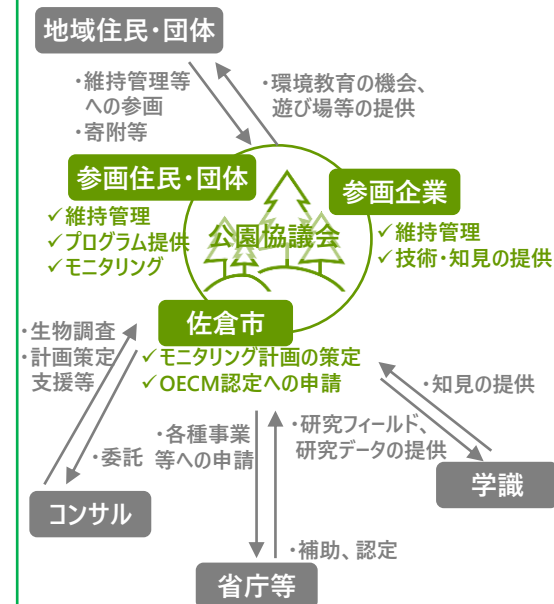
里山マネジメントの展開

- ✓ 持続的なマネジメントの実施
- ✓ 生物の生息・生育空間の創出による生物多様性の確保に資する公園整備（ネイチャーポジティブ公園事業の活用を想定）
- ✓ 休耕田の再生や池の整備を通じた湿地再生
- ✓ 伐採木の活用

持続性の強化

- ✓ 情報発信手法の検討
- ✓ 資金調達手法の検討

プロジェクトの事業スキームイメージ



03

②アウトドア・ラーニングプロジェクト（みどりの保全）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 近年、STEAM教育など分野横断型の課題解決能力に注目した教育等が進められており、野外体験保育などの自然をフィールドとした学習プログラムなども広がっている。
- ✓ 佐倉里山自然公園においても、地域主導によって森のようちえんやプレーパーク等、自然を活かした遊びや学びが行われている。
- ✓ こうした活動の活性化を促しプログラムの充実を図りながら、アウトドア・ラーニングの場として、佐倉里山自然公園を整備するとともに、周辺施設との連携を加速させることで、子育て世代に選ばれるまちづくりに貢献しつつ、“ふるさと”として里山に親しんでもらい次の世代に継承する担い手の育成・確保を図る。

期待される効果

- ✓ 自然・環境、ゼロカーボンシティ宣言への関心向上
- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ こどもの非認知能力の向上
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ 子育て世代の移住定住の促進

短期

アウトドアラーニングの場としての環境整備

既存活動の継続的な実施と調査

- ✓ プレーパーク、森のようちえんなどの継続的な実施
- ✓ 野鳥観察会や自然観察会の継続的な実施
- ✓ こども参加型の動植物調査等（動植物との触れ合いの機会創出）

“ちばの森あそび”環境の検討とPR

- ✓ 動植物図鑑・樹名板などの作成
- ✓ 活動情報の発信・PR
- ✓ 利用者目線の場の計画
- ✓ 近隣の幼稚園・保育園や小学校への森林環境教育プログラムの開発・提供

アウトドアラーニングの場の整備

- ✓ アウトドア活動を通じた体験・教育の場としての空間整備
- ✓ 上峠城跡等の遺跡の保存・活用の場としての空間整備（保存するだけでなく、実際に体験して、学べる場への整備）

次の展開

市内外との連携したアウトドア・ラーニングの拠点化

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

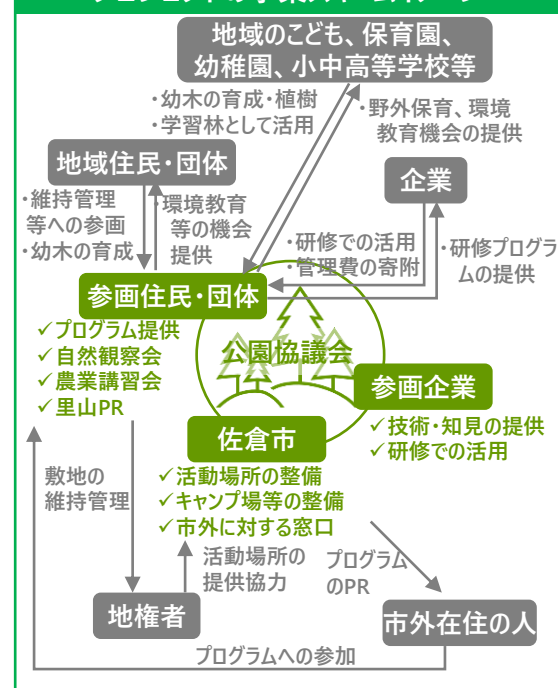
市内周辺施設との連携促進

- ✓ 市内の周辺資源（印旛沼）等と連携したプログラムの開発・提供

市外との連携促進

- ✓ 都内などの市外からの受入れ環境の整備
- ✓ 都市部の保育・教育施設との連携体制の構築

プロジェクトの事業スキームイメージ



03

③里山健康フィールドプロジェクト（みどりの活用）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 成熟した都市の中では、ウェルビーイングや健康がまちづくりの重要な要素となっている。実際に高齢化が進行する中で、健康まちづくりに注力する自治体も多い。
- ✓ 里山自然公園の周辺には、東邦大学医療センターや高齢者福祉施設等が立地しており、日々の散歩やリハビリテーション、リフレッシュ等、自然の中で過ごせる場へのニーズは高いと考えられる。
- ✓ そこで、里山の自然環境を活かしたフットパスの整備や周辺施設と連携した健康づくりプログラムの開発・提供を通じて、佐倉里山自然公園を「里山健康フィールド」として整備するとともに、市内の施設との連携を加速させることで佐倉市の健康まちづくりにおける拠点として育成を図る。

期待される効果

- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ 市民の健康増進・健康寿命の延伸
- ✓ 市への来訪者数の増加

短期

里山×健康のフィールド整備

健康プログラムの提供・検証

- ✓健康づくりプログラムの試行的実施
- ✓イベント等での効果測定・検証
- ✓既存散策ルートの補修・管理

連携体制の構築とルート検討

- ✓病院や高齢者福祉施設等との連携体制構築（意見交換等から）
- ✓意見を踏まえたフットパスルートの計画・検討

フットパスの整備

- ✓リハビリ・セラピー等にも使えるフットパスの整備
- ✓散策を通じた自然や動植物との触れ合いによる健康寿命の延伸

次の展開

市としての健康まちづくりの加速
※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

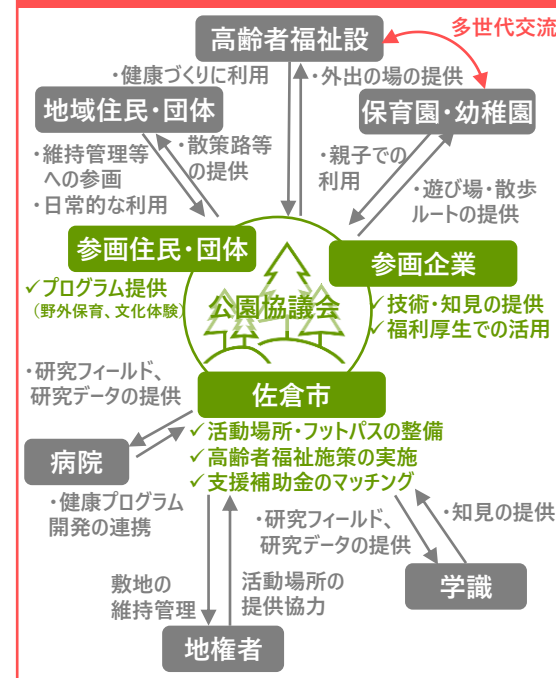
周辺との連携促進

- ✓市内の周辺資源（印旛沼）等と連携した回遊プログラムの開発・提供

滞在型の回遊・体験の促進

- ✓市内での長期滞在によるリトリートプログラムの開発・提供
- ✓里山×健康フィールドとして情報発信・PR

プロジェクトの事業スキームイメージ



- ✓ 2050年のカーボンニュートラルを目指し、佐倉市はゼロカーボンシティ宣言を行い、様々な施策を行っている。
- ✓ 里山自然公園は、広大な緑地として、CO₂の吸収源となるだけでなく、伐採竹などを炭化を通じて空気中に排出されるはずであったCO₂を固定化する、バイオ炭に関する取組も行われている。
- ✓ こうした取組の加速に向け、バイオ炭の活用に向けた場づくりやクレジットの創出・売却の仕組み構築等を図り、カーボンニュートラルの実現に貢献する。
- ✓ バイオ炭を土壌改良材として活用し、遊休農地を有機農業の体験の場として整備するとともに都市部等との米を通じた連携により、循環型の有機農業を通じた谷津の再生を図る。

- ✓ カーボンニュートラルへの貢献
- ✓ オーガニックビレッジへの貢献
- ✓ 耕作放棄地の縮小・谷津の再生
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築

バイオ炭によるカーボン・クレジットの創出

バイオ炭によるカーボンクレジットの実装

- ✓炭化炉整備の計画検討
- ✓バイオ炭づくりの体験プログラムの提供
- ✓バイオ炭を活用いただける農家との連携体制構築
- ✓J-クレジット申請（プロジェクト登録）

- ✓炭化炉の整備（グリーンイノベーション基金の活用想定）
- ✓削減量のモニタリング
- ✓遊休農地でのバイオ炭を活用した有機農業の検証
- ✓カーボン・クレジット市場、取引事業者等の検討

- ✓伐採竹などを活用したバイオ炭の製造
- ✓谷津での有機農業の実施体制の構築
- ✓J-クレジットの認証・発行
- ✓クレジットに関する情報発信・PR

カーボンクレジットを活用した 有機農業・流域治水の展開

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

バイオ炭により本来排出されるはずであったCO₂等の固定量を「クレジット」として国が認証する制度。

有機農業・流域治水
を通じた都市間連携

- ✓都市部とのトレードオフな関係構築
 - ✓カーボン・クレジットを活用した公園・農地の維持管理
 - ✓有機農業や湿地再生を通じた流域治水の実践
 - ✓谷津での有機農業の体験プログラムの開発・提供
 - ✓環境教育と併せたこども食堂等への米の提供
 - ✓有機農業に関する情報発信・PR
 - ✓有機農業を通じた谷津の再生
 - ✓流域治水を通じた流域スケールでの協力関係構築

公園協議会

地域住民・団体

- ・維持管理を通じた採木等の提供
- ・谷津の活用

地元農家

- ・農業指導
- ・バイオ炭の提供

参画団体

- ✓バイオ炭の製造
- ✓クレジット創出
- ✓モニタリング

参画企業

- ✓技術・知見の提供
- ✓クレジット購入

佐倉市

- ✓クレジット申請・販売・PR
- ✓遊休農地と活用希望者のマッチング

民間企業

- ・クレジット購入
- ・クレジット販売

省庁等

- ・認証

学識

- ・研究フィールド、研究データの提供

他自治体

- ・クレジット提供
- ・方法論の検討支援

03

⑤里山大学を核とした共創による再生プロジェクト（みどりの共創）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ アウトドアへの関心の高まりから、自然の中で過ごす時間を求める人が増えており、佐倉市は都市部からも来訪できる距離にあることから、こうしたニーズの受け皿になれる可能性がある。
- ✓ 一方で佐倉里山公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっていることから、アウトドア体験や里山管理等のプログラムの提供を行う里山大学の開講を予定している。
- ✓ 里山大学の活動を中心としながら、里山大学のOBや民間企業などのノウハウを活かし、アウトドアを切り口とした里山自然公園の再整備を進めるとともに、担い手の世代交代を促進することで、元来の自然環境を活かした持続可能なアウトドアフィールドとしての里山再生を図る。

期待される効果

- ✓ 来訪者数の増加
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ ウェルビーイングの向上
- ✓ こどもの非認知能力の向上
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築

短期

里山大学を中心としたにぎわい創出

里山大学の開講・活動

- ✓ 里山大学の開講
- ✓ 各種体験プログラムの開発・提供

里山大学の活動環境の整備

- ✓ 里山大学の活動拠点の整備
- ✓ 体験プログラムの実施を通じたモニタリング方法・体制の構築
- ✓ アウトドアフィールドとしての実証実験

周辺施設や民間企業との連携加速

- ✓ 里山大学OBの活動環境の整備（オーナー制度、共有での一部エリア貸出等）
- ✓ 小学校等と連携した野外教育プログラムの開発・提供
- ✓ 公民連携事業の導入に向けた可能性の検討（導入可能性調査）

※用地買収等の進捗状況に合わせて進行

次の展開

里山大学での利用を踏まえた公民連携による整備

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

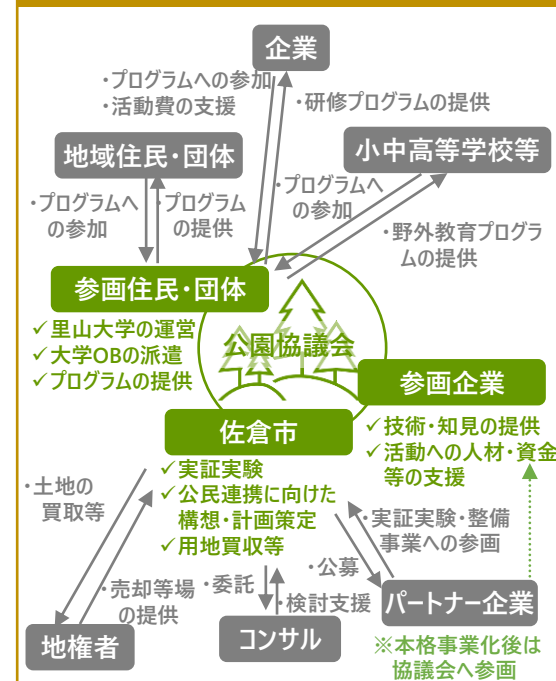
公民連携による更なるにぎわいづくり

- ✓ 市内の公園・緑地などへのOBの派遣・講習プログラムの開発・提供
- ✓ 整備事業者の公募
- ✓ アウトドアフィールドとしての魅力を発信及び市内外から多くの来訪者を呼びこむイベントの実施

公民連携による公園整備

- ✓ 公民連携事業による佐倉里山自然公園の整備

プロジェクトの事業スキームイメージ



03

⑥佐倉里山サポーターづくりプロジェクト（みどりの共創）



プロジェクトの概要・目的

- ✓ クラウドファンディングや企業版ふるさと納税等、市の財政負担によらない資金調達手法が、グリーンインフラ等の公共による自然環境の整備や保全事業においても広がりつつある。
- ✓ 里山自然公園は、維持管理を地域の善意に頼っている部分が多い。その一方で地域団体も高齢化が進んでおり後継者不足が課題となっている。
- ✓ そのため、佐倉里山自然公園の魅力や価値を見える化し、多方面に発信することで、広く知ってもらい、デジタルコンテンツなども活用し、関わってもらえる人を増やしていく。こうした取組を行いファンづくりを進めた上で、資金を出資する等により、現場になかなか来れない人も応援できる仕組みを構築することで、みんなでふるさとの景観を守っていく。

期待される効果

- ✓ 生態系の価値のPR
- ✓ 認知度の向上・ブランディング
- ✓ 里山再生の自分ごと化
- ✓ 持続可能な維持管理体制の構築
- ✓ 維持管理費の補填

短期

コンテンツ整備を通じたファンの拡大

PR戦略の策定

多方面に向けたPR・情報発信

関わり方の拡大

- ✓ 佐倉里山自然公園のPR戦略の検討
- ✓ 楽しみながら学べる体験プログラムの提供
- ✓ 里山の効果の見える化（モニタリング等）
- ✓ 大学等との協働による体験を通じた憩いの場づくり
- ✓ 大学等への研究フィールドとしての提供
- ✓ 地域住民等に向けた体験プログラム
- ✓ サポーターブックの作成
- ✓ 里山の効果に関する学術的な発信
- ✓ 市内企業等へのPR・アプローチ
- ✓ 現場でなくても楽しめるデジタルコンテンツの開発
- ✓ 継続的に関われる体験プログラムの開発・提供

次の展開

サポーターとして応援できる仕組みづくり

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

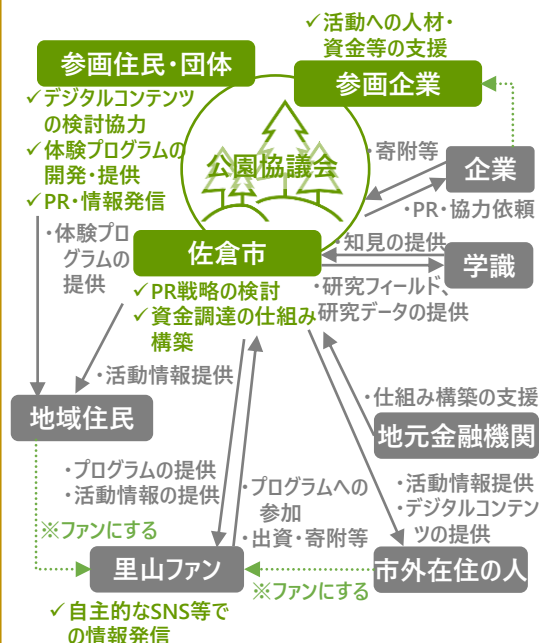
資金調達手法の検討

- ✓ ふるさと納税やNFT等の応援いただける仕組みの検討（企画・財政部署や金融機関等含む）
- ✓ 企業のCSRやESG投資を見据えた民間資金活用策の検討

民からの資金を活かした維持管理

- ✓ ふるさと納税やNFT等の実装
- ✓ 調達した資金を活かした維持管理の継続的な実施

プロジェクトの事業スキームイメージ



04

04 実現化方策

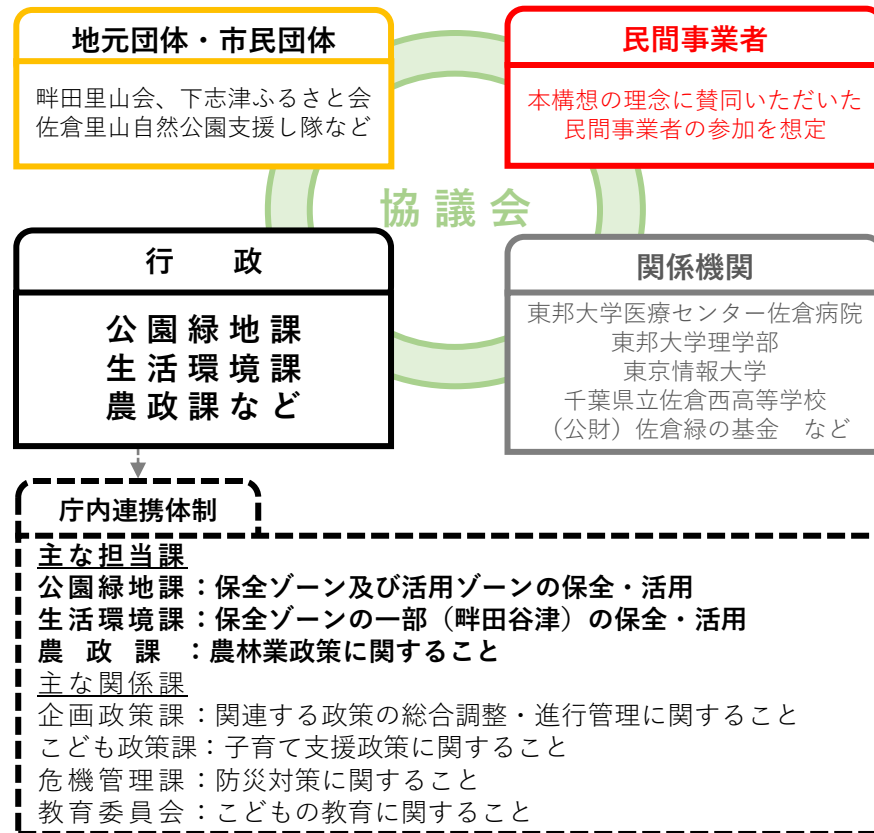
04 実現化方策

推進体制

- ✓ 本アクションプランを推進するために、佐倉里山自然公園協議会を設立する。
- ✓ 協議会は合同会議メンバーを軸に始動し、活動状況の共有や活動方針の検討等を行うこととし、活動を展開していく中で輪を広げていく。
- ✓ なお、佐倉里山公園自然公園を都市公園として開設した際には、都市公園法に基づく都市公園協議会とすることも想定する。
- ✓ 協議会メンバーはそれぞれ以下の役割を担うことを想定します。

【想定される役割分担】

- 地元団体・市民団体 : 体験プログラムの提供・維持管理 等
- 民間事業者 : 知見・人材資金の提供
研修の場としての活用
- 関係機関 : 知見の提供、仕組み構築や先導的な取組
に対する連携
- 行政 : 協議会事務局、計画・方針のとりまとめ
事業者や学識、市外の主体とのコーディネート



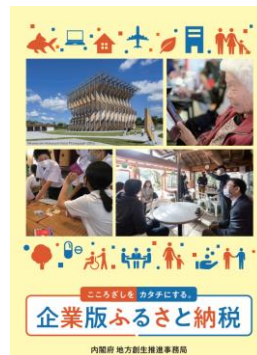
04 実現化方策

資金調達のアイデア

- ✓ グリーンインフラの特徴の1つとして多様な主体との連携が期待できる点があげられる。住民や事業者との連携の在り方として、活動への参画だけでなく資金調達の面からの連携・支援も想定される。そうした市の予算だけでなく住民や事業者などからも資金調達を行う、以下のようなアイデアについても佐倉里山公園の整備にあわせて検討を行い、持続可能な活動体制の構築を目指す。

企業版ふるさと納税

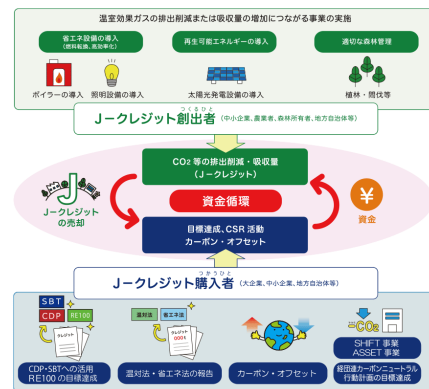
事業者によるふるさと納税制度であり、納税者は税額控除を受けられ、自治体は活動資金を確保できる。
事業者としては、税制の優遇のほか地域貢献を通じたPRなどにもなる。



出典：内閣府HPより

カーボנקレジットの売却

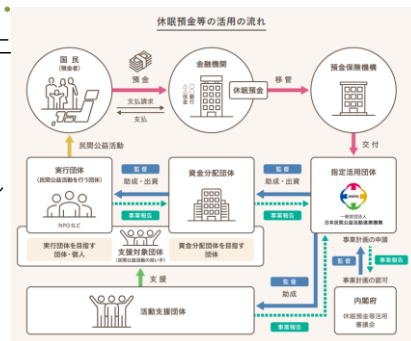
バイオ炭により本来排出されるはずであったCO2等の固定量を「クレジット」として国が認証するJ-クレジット制度を活用。
クレジットの売却により、維持管理や活動費用の補填が期待できる。



出典：J-クレジットHPより

休眠預金の活用

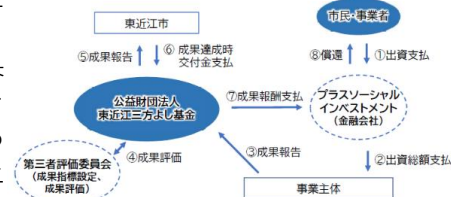
2009年1月1日以降の取引から10年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。
NPO団体など、助成・出資を受けられる団体には条件あり。



出典：日本民間公益活動連携機構HPより

ソーシャルインパクトボンド

市民等から出資を募り、その出資金を事業の成果報酬に対して支払う。その際、事業開始時に設定した成果指標に基づき、段階的に成果報酬を支払う制度。また、成果の評価にあたっては、第三者評価等を行った上で市及び資金提供者に報告を行う。市民が一定のリスクをもって事業に関与することで自分ごととして捉える事が期待できる。



※東近江市では、段階的な成果指標は設定しておらず、また出資に対する利息分は市が支払いを負担している。

出典：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム金融部会
「グリーンインフラとグリーンインフラへのファイナンスについて」より

04 実現化方策

活用可能性のある補助事業等

- ✓ 取組を推進するにあたって、市の予算や民からの資金調達だけでなく補助事業の活用も検討する。
- ✓ 活用する事業に関しては、国土交通省、農林水産省、環境省が取りまとめた「グリーンインフラ支援制度集 令和5年度版」を参考に活用可能性を検討する。



グリーンインフラ支援制度集
令和5年度版



令和5年4月
国土交通省・農林水産省・環境省

グリーンインフラ活用型都市構築支援事業

官民連携・分野横断により、積極的・戦略的に緑や水を活かした都市空間の形成を図るグリーンインフラの整備を支援。緑や水が持つ多面的機能の発揮を目的とした目標を3つ以上設定することなどの要件があり、民間事業等に対しても1/2補助が適用される。



生物多様性保全推進支援事業

地域における生物多様性の保全再生に資する活動等（ソフト事業）に対し、必要な経費の一部を交付。対象となる事業に応じて対象主体や国費率が異なる。

地域 島根県出雲市、雲南市
団体名 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク
推進協議会
年度 2019（令1）～2021（R3）
当協議会では、コウノトリやトキと共に生きる環境づくりを進めるため、コウノトリ・トキの生息環境の把握・分析、住民参加型の広域調査、学習会・生きもの調査イベントの開催①、ビオトープの整備②・維持管理手法の検討、地域振興に関する意見交換会の実施や体験型交流等地域振興策の検討③など、各主体が連携して継続的な取組みを行うための計画を策定している。



①生きもの調査イベント ②ビオトープ整備 ③意見交換会

ネイチャーポジティブ公園事業

植栽やビオトープなど生物の生息・生育空間の創出を通じた生物多様性の確保に資する公園整備を支援する事業。生物多様性の確保に資する活動に必要な公園施設（休憩施設やトイレ等）も補助対象となる。

參考資料

- ✓ 関係各課の担当職員が参加
- ✓ グリーンインフラについて国土交通省環境政策課 一丸課長補佐より講演
- ✓ 佐倉里山自然公園のポテンシャルについて意見交換



- ✓ 地域のステークホルダーの皆様と関係各課の担当職員が参加
- ✓ 里山でのグリーンインフラについて国立環境研究所西廣淳氏より講演
- ✓ 佐倉里山自然公園の将来像及びグリーンインフラの取組について意見交換



- ✓ 地域のステークホルダーの皆様と関係各課の担当職員が参加
- ✓ 佐倉里山自然公園におけるグリーンインフラの取組に対して自身ができることについて意見交換

[illegible][illegible]